

平成 28 年度安全管理優良事例集

平成 28 年 9 月



平成28年度 安全管理優良受注者

NO.	受注者名	所在地	推薦事務所
1	相村建設株式会社	新潟県上越市	高田河川国道事務所
2	石川建設工業株式会社	石川県金沢市	金沢河川国道事務所
3	株式会社岡部	富山県南砺市	富山河川国道事務所
4	株式会社笠原建設	新潟県糸魚川市	高田河川国道事務所
5	株式会社小池組	新潟県村上市	羽越河川国道事務所
6	株式会社近藤組	新潟県新潟市	新潟港湾・空港整備事務所
7	株式会社高田組	富山県富山市	立山砂防事務所
8	谷内工業株式会社	富山県射水市	伏木富山港湾事務所
9	株式会社種村建設	新潟県南魚沼市	湯沢砂防事務所
10	株式会社傳刀組	長野県大町市	松本砂防事務所
11	株式会社文明屋	新潟県南魚沼郡湯沢町	湯沢砂防事務所
12	株式会社北條組	長野県長野市	千曲川河川事務所
13	北陸パブリックメンテナンス株式会社	新潟県新潟市	新潟国道事務所
14	株式会社本間組	新潟県新潟市	信濃川下流河川事務所
15	株式会社丸西組	石川県小松市	金沢河川国道事務所
16	和仁建設株式会社	岐阜県高山市	神通川水系砂防事務所

※受注者名50音順

相村建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の確立

- ・安全衛生管理の確立・強化と自主安全及び相互安全体制の推進
- ・危険有害要因の予測を行い、災害防止対策の実施

②安全衛生教育の計画的実施（安全意識の高揚）

- ・社内、社外教育での安全教育の実施
- ・災害事例の活用と自現場の見直し

③心と身体の健康づくりの推進

- ・健康の保持、指導
- ・健康診断の完全実施

2. 現場等における具体的な取組事例

①橋脚耐震補強工事における安全管理上の課題

橋桁での橋脚コンクリート巻立て工事を行う上で、鋼矢板打込・クラムシェル等による掘削作業が行われる。施工基面から橋桁までが近接（H＝4.0m）していることから、重機・クレーンで橋脚及び架設されているガスパイプラインを損傷することが懸念された。



②課題に対して現場で行った安全対策

工学的な管理策として単管・鋼製足場板をクランプで橋桁に固定し、既設橋桁等の防護を講じた。また、標識／警告／管理策として、新規入場者教育での周知・重機作業時の誘導員の配置・注意喚起標識の設置を行った。



3. その他工夫している点

- ①現場を見渡せる場所にWebカメラを設置し、現場事務所のパソコン又は携帯端末で現場の画像をリアルタイムに確認出来るようにした。

【効果】

現場事務所での打ち合せや新規入場者教育の場面においてパソコンの画像を利用し、わかりやすい説明・教育が可能となった。また、撮影された現場の画像がパソコン・携帯端末でリアルタイムに確認することができ、防犯対策にも利用出来た。

- ②締切盛土上流部に自動水位観測計・連動式パトライト及びサイレンを設置した。

【効果】

大雨・雪解けによる増水時において設定水位に達した場合、即座にパトライト及びサイレンが自動起動し、現場従事者全員に作業中止・待避を周知できた。

石川建設工業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全大会の開催

年1回、社員、協力会社の安全意識の高揚を図る為に、外部講師を招いての安全大会の開催。

② 安全衛生管理計画の現場での実践

年1回の安全大会において、安全衛生管理計画を社員、協力会社に周知し現場での実践を図る。

③ 経営トップによる店社安全パトロールの実施

月2回の店社安全パトロールに経営トップも加わり、安全衛生管理計画に基づき会社全体での安全管理を実施

2. 現場等における具体的な取組事例

① 道路改良工事における安全管理上の課題

伐採木の処分にあたり、勾配55%の急斜面において伐採木の運搬が必要となり斜面からの転落事故が懸念され、更に隣接工区の安全の確保が課題であった。



② 課題に対して現場で行った安全対策

クローラダンプを使用しての運搬では、隣接工区の安全の確保が難しいことから、運搬ルートに索道を設置し、伐採木の運搬を行った。また作業員には滑り止め金具を装着させ滑落事故防止を図った。



3. その他工夫している点

夏期の施工の際、熱中症対策として現場職員がアラーム付き熱中指数計を常時携帯し、暑さ指数(WBGT)を確認しながら作業の監視及び警戒時の休憩・水分補給の促進を行った。



株式会社 岡部

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生方針（人命尊重を最優先）の徹底

「人命尊重」を最優先し、働く者一人ひとりの安全の確保を図るとともに、全社員が「安全第一」を自ら行動で示し、一致協力して安全水準の向上と維持に努め、安全な職場環境の形成を目指す。

② 安全衛生管理体制の確立と運用

全体を統括する「中央安全衛生委員会」及び、各事業所においては法令に基づき、また、プロジェクトごとの従事者数で法令等の基準を満たさない場合においても必要と認めた場合には必要な管理体制を確立し、運用をはかる。

③ 多方面からの安全パトロールの実施

労働災害の未然防止、従業員の安全意識の高揚を目的とした安全活動の一環として、「経営トップ及び幹部」、「安全部」、「委員会メンバー」、「女性社員」、「協力会社との合同」など多方面から安全パトロールを実施し、全社的に安全意識を醸成する。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 能越道 惣領道路その4工事における安全管理上の課題

場所打函渠施工箇所上空にある高圧送電線（15万4千ボルト）との近接作業において損傷事故対策が必要であった。また、供用している高規格幹線道路（能越自動車道）に隣接して施工するため、交通事故などを含めた第三者に対する公衆災害防止の徹底が求められた。



② 課題に対して現場で行った安全対策

新技術「レーザーバリア」を採用し、関係者全員が監視できるシステムの構築を図った。また、上空施設管理者である北陸電力との事前協議の実施及び作業員へ直接、安全教育を実施することで事故対策の周知徹底と安全意識の向上に努めた。



3. その他工夫している点

現場単位で建災防の外部講師による安全衛生教育の実施や店社による月1回の安全パトロールの他に女性職員や協力会社によるパトロールを実施し、様々な観点より作業環境の改善に取り組んだ。



株式会社 笠原建設

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全教育活動の充実

- ・協力業者を含む職長を対象に、自社専任 RST トレーナーによる、再教育を徹底すると共に、年間教育計画に基づき各種特別教育講習を開催し、安全に対する能力向上を図っている。

②労働災害低減のための施策

- ・リスクアセスメント手法による作業手順書・危険予知活動を実践すると共にヒヤリハットの収集に努め、その分析結果を協力業者と共有展開して労働災害要因の低減に努めている。

③安全パトロールの実施

- ・月2回、会社役員による安全パトロールと週1回の衛生管理者によるパトロールを実施すると共に安全管理者(部長・課長・課長補佐)によるパトロールを各自、月2回以上実施している。
- ・協力業者による自主パトロールと年2回の合同パトロールを実施している。
- ・女子社員による安全衛生パトロールを年1回実施し、女性の視点から見た安全衛生に対する意見を安全衛生管理に反映させている。



女子パトロール状況

2. 現場等における具体的な取組事例

①寺島低水護岸その3工事における安全管理上の課題

本工事は、県道姫川橋の上下流に低水護岸を施工する工事である。県道姫川橋は昭和初期に開通した古い橋であり、低水護岸天端高から桁下クリアランスが約 2.0m と大変低いことから、橋梁下での連節ブロック施工時に、重機と橋梁との接触が懸念された。



橋下施工状況

②課題に対して現場で行った安全対策

姫川橋の橋梁上下流部に「レーザーバリア警報システム」を設置し、橋梁に異常接近するとパトランプが点灯し、警告音が鳴るようにした。また、重機オペレーターは警報システムと連動した警報受信装置を携帯させ、橋梁への異常接近が感知できるようにした。これにより、橋梁と重機との接触事故防止が図られ、安全かつ確実な施工をおこなうことができた。



レーザーバリア設置状況

3. その他工夫している点

- ・河川工事の安全確保のため水位計及び風速・雨量計を設置し、そのデータをリアルタイムに把握して工事を進めた。
- ・「女性職場環境改善」として、現場事務所に女性専用の更衣室及び水洗トイレを設置した。また、現場においても、雨合羽の更衣スペースのある広いトイレを男女別に1棟ずつ設置し、女性が働きやすい環境作りに務めた。

株式会社 小池組

1. 会社としての安全管理重点事項

- ① 安全衛生管理体制の確立・強化
 - ・年度安全衛生管理計画の作成、安全衛生委員会の定期的開催、経営者及び管理者のパトロール実施、会社幹部による無通告現場巡視
- ② 安全衛生教育の計画的実施
 - ・雇入れ・作業変更時教育の徹底、職長教育の実施、技能講習特別教育の派遣実施、安全講習会の参加
- ③ 作業所における安全衛生活動の強化
 - ・安全施工サイクルの実施、KY活動の完全実施、作業標準の作成と安全遵守、チェックシートによる機械点検の実施

2. 現場等における具体的な取組事例

- ① 鳥屋根固及び神林環境整備他工事における安全管理上の課題

- ・本工事における作業工区が一級河川荒川の下流部及び中流部に点在しており、ゲリラ豪雨や異常気象での急な出水による避難の遅れや資材の流出が懸念される為、下記のような課題が考えられた。

- 1) 現場単位での早期の気象予測方法の確立。
- 2) 遠隔地でもリアルタイムで河川水位の把握が可能なシステムの構築。



施工状況

- ② 課題に対して現場で行った安全対策

- 1) 現場単位で降雨予測が可能な気象情報モバイルシステム (NETIS) を活用し、出水対策補助ツールとして利用すると共に、設定した中止基準値を超える降雨が想定される場合は、緊急メールが配信され早期の対応が実施できる様にした。



気象情報モバイル

- 2) 河川水位の把握についてはデータロガーシステム (NETIS) を使用しモバイル通信網を介して遠隔地や休日でもリアルタイムで水位が確認できるようにした。また、設定水位越流の場合、緊急メール配信を行うと共にパトライト警報を作動させ作業中・休日を問わず迅速に対応できるような体制を構築した。



3. その他工夫している点

- ・特に運行回数の多いアジテータ車運転手に対し現場入場前にハザードマップ等により安全教育を実施する事により運搬路における危険点の周知徹底を図り交通災害の未然防止に努めた。
- また、各工区毎に緊急時の避難方法について訓練を実施し現場からの一次避難場所や各市町村指定の避難場所までの避難路を実際に走行し緊急時に迅速に対応できるよう現場に即した実地訓練を実施した。



水位観測クラウドロガー

株式会社 近藤組

1. 会社としての安全管理重点事項

① 工事災害・公衆災害・労働災害防止の徹底

「墜落、転落災害」・「クレーン、車両系建設機械による災害」・「交通災害」をゼロにする。

② 安全管理体制の構築

年度初めに全社員及び協力業者が参加する「安全衛生大会」を開催すると共に毎月、事故事例検討・安全に関する情報を共有し、各作業所に周知するための「安全衛生委員会」を開催している。また、社内安全委員による安全パトロールを2回/月実施し、「COHSMS」による安全管理体制を構築している。

③ 工事現場における実施

「KY活動」・「安全衛生打合せ」・「災害防止協議会」・「安全教育・訓練」・「新規入場者教育」を実施して労働災害防止に取り組んでいる。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 新潟港海岸(西海岸地区)離岸堤消波外1件工事における安全管理上の課題

本工事の施工箇所は日本海に直接面しているため、冬期の季節風の影響を受けやすい。

また、施工箇所の工事用車両出入口は交通量の多い一般道路と隣接していることから、交通事故や第三者災害及び粉塵発生が懸念された。



【ブロック製作ヤード全景】

② 課題に対して現場で行った安全対策

作業中の強風に対する作業一時停止の判断を行うため、環境表示機(太陽光発電式)の設置を行い、リアルタイムの風速を作業員一同で確認しながら作業を行い、風速が10m/secを超えた時はクレーン作業の一時停止を行った。

工事用車両出入口には交通誘導警備員を配置し、工事用車両の出入りの際に一般車両との交通事故防止のため一般車両優先の交通誘導を行った。また、午前・午後各1回散水車による道路清掃を行うことで粉塵発生を防止したことで苦情もなく完工できた。



【環境表示機設置】



【交通誘導警備員配置】



【散水車による道路清掃】

3. その他工夫している点

施工期間が冬期でありインフルエンザ流行時期でもあるため、足踏み式手洗い器を設置し休憩時及び作業終了時の手洗い等に使用した。また、作業員休憩所に超音波噴霧器及び除菌剤を設置し、作業員のインフルエンザ・風邪予防を行った。結果、作業員の衛生環境が保たれ、一人として休業することなく完工できた。



【足踏み式手洗い器設置】



【超音波噴霧器・除菌剤設置】

株式会社 高田組

1. 会社としての安全管理重要項目

①報告・連絡・相談の徹底

月に一度、役員・営業部・工務部が集まり月例会を開催し、各現場における社内安全パトロールでの指摘事項や推奨事項の報告、問題点の抽出・検討をすることで、「報告・連絡・相談」を徹底し、会社全体で安全管理や安全対策に取り組む。また、それらの情報を共有することで、現場に持ち帰り互いに良い点を各現場にて実践する。

②定例安全行事の徹底

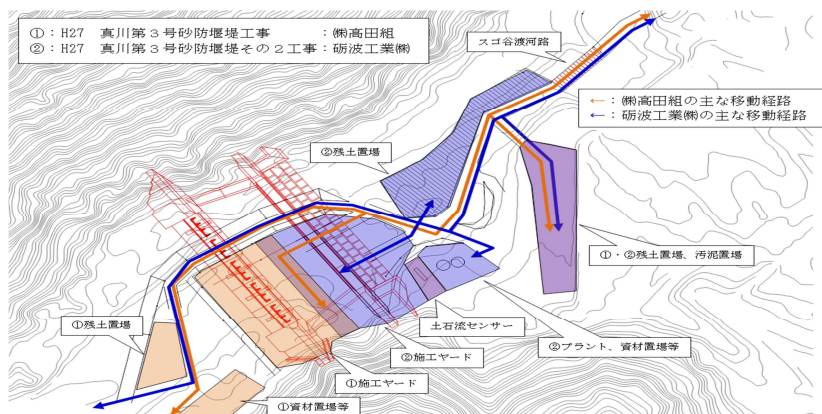
日々行われる行事である、「朝礼、危険予知活動、打合せ」はリスクアセスメントを取入れて行う。

作業の中で現場の状況は常に変化していくので、定例安全行事を通じて現場においても①の「報告・連絡・相談」ができる雰囲気づくりを大切にし、現場全体で『危険』を抽出し『改善』を図る。

2. 現場等における具体的な取組事例

①H27 真川第3号砂防堰堤工事における安全管理上の課題

本工事箇所は当社施工の本堰堤と別発注施工の副堰堤を同時期に同一仮締切り内で施工するものであり、互いの施工ヤードが重なる箇所があり、移動経路についても複雑に交錯しており、狭い範囲内に重機や作業員が混在し作業を行う状況であった。



②課題に対して現場で行った安全対策

業者間で常に最新情報の共有を図り、情報は作業員全員に周知徹底することで、円滑に且つ安全に工事を進めることができた。また、異常出水に備え全員参加の避難訓練を月に2回実施することで河川災害防止対策に努めた。

3. その他の工夫

本工事着手にあたり、直営作業員及び協力業者に立山カルデラにおける砂防事業の歴史や重要性、また、集中豪雨による土石流発生や河川増水がいかに危険かを認識してもらうため「立山カルデラ博物館」にて見学会を実施した。



谷内工業株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①労働基準法、労働安全衛生法等の諸法令遵守徹底

施工計画時、諸法令の再確認を行い、施工計画書に反映させ周知徹底を行う。

②安全衛生管理体制の構築

安全衛生管理体制を構築し、責任者の明確化を図り、全員参加による安全衛生活動を推進する。

③安全工程会議の実施

毎月1回、社長、部門長及び全工事責任者における工程の進捗や安全対策についての会議を行い、翌月の安全工程計画に反映させる。

2. 現場等における具体的な取組事例

①海上工事における安全管理上の課題

施工箇所は航路に近接し、一般船舶の航行が多い箇所であり、海上衝突や第三者災害が懸念される。さらに、基礎工、消波工等における、海上クレーン作業や潜水作業が主作業となることから、クレーン災害や潜水災害も懸念される。



安全監視船配置状況

②課題に対して現場で行った安全対策

海上作業中は安全監視船を1隻配備し、船上に大きく「監視船」と明示し、赤旗を掲げ、一般航行船舶への注意喚起を行った。

潜水作業においては、改正高圧則に則り、潜水時間の管理を確実にを行い、潜水病の予防を行った。また、潜水用コンプレッサーには一酸化炭素検出装置を取り付け、安全で確実な送気を行い、潜水士の一酸化炭素中毒を予防した。



一酸化炭素検出装置設置状況

3. その他工夫している点

緊急時、速やかに対応が行えるよう、現場にはレスキューベンチ（ベンチ型担架）を設置し、現場事務所にはAED（自動体外式除細動器）を配備した。

株式会社 種村建設

1. 会社としての安全管理重点事項

- ①「安全衛生水準の向上」 法律視点による安全管理への取組
作業場での主な関係法令を容易に確認し得るシートを整え、関係者に周知する。安全衛生水準向上サイクル『安全衛生計画→実施→評価→改善』を確実に実施する。
- ②「墜落・転落、建設機械、倒壊・崩壊、交通」災害の撲滅
建設現場で発生する四大災害について、重点的に点検対策を講じ、毎月2回の店社安全パトロールにおいて重点的にチェックし改善を図る。また、KY活動時のリスクアセスメントによりさらに危険度の低減を図る。
- ③「快適職場!!」への継続的な取組
労働災害の撲滅には、職場の作業環境や、良好な人間関係による「誰もが積極的に参加出来る、働きやすい職場環境づくり」が重要なため、全社員一丸となり快適職場構築に向け取り組む。

2. 現場等における具体的な取組事例

- ①檜倉沢砂防堰堤群工事における
安全管理上の課題

現場までの工事用道路は狭隘で危険な道路であると共に、沢を洗い越して横断する為、降雨による出水で通行不能となる場合もある。また現場は急峻な地形で、降雨時には周辺の沢からの出水により増水がある。



- ②課題に対して現場で行った安全対策

土石流センサーの設置は基より、WEBカメラによる危険箇所のリアルタイム監視や、作業員にも現在の気象状況等が容易に確認できる「環境表示機」を設置する等、天候把握が困難な山間地での指示等が的確に行えるように工夫を図った。



3. その他工夫している点

- ・ 工事用道路には円滑な通行が行えるように、ソーラー式無線信号機を設置。
- ・ 「熱中症予防対策」として急速製氷機や塩飴を用意するとともに、WBGTを常時観測し、作業員に対し水分補給や休息の指示を行った。
- ・ 安全教育訓練では、毎月、現場環境に応じた実技・避難訓練を実施することにより、退避完了までの時間を体感させ、緊急時に即応できるよう努めた。

株式会社 傳刀組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針遵守の徹底

(株)傳刀組の安全衛生方針として、ア、「安全」と「健康」の確保を最優先し、関係法令及び社内規程等を遵守する。イ、安全衛生管理システムの適切な運用を図る。ウ、職務上の役割に応じて、関係者全員の協力・協調の下に、安全で快適な職場環境の維持及び継続的な改善に努める。上記三項目を徹底させる。

②安全衛生管理システム体制の構築

平成24年に労働安全衛生マネジメントシステムを確立し、導入後4年を経過した。また、緊急事態発生時に現場が混乱しないように緊急時対応マニュアルを作成し、配備している。

③社内安全誌『進める安全』の発刊を毎月実施

社内安全活動の起点となる、月刊誌『進める安全』を昭和62年より発刊している。安全活動・社長の言葉・社内パトロール（協力会と合同）の実施、是正・指導の報告・季節毎の便り・表彰等について、社内掲示板の役割を併せ持ち、月刊安全誌として継続的に発刊を実施している。平成28年8月まで、のべ第352号を発刊している。

2. 現場等における具体的な取組事例

①金山沢第4号砂防堰堤工事における安全管理上の課題

施工箇所は、融雪時、降雨時には土石流が頻発する現場であった。狭窄地であり、避難時間が限られる厳しい現場条件下で、土石流に対する作業員の安全確保が最重要課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

小雨でも土石流が発生する溪流であるため、現場より約1km上流に監視員と土石流振動センサーを配備し、源頭部の定点撮影及び観測を行い、常に作業員に上流域の最新情報を提供した。安全にPDCAサイクルを活用することにより、以前より構築した土石流監視システムの更なる改良を図った。作業員に確実に警報を伝達する方法として、サイレンと携帯バイブレーターを用いて二重による警報体制を確立した。



土石流発生写真



土石流監視システム

3. その他工夫している点

作業員のリラクゼーション、また熊、猪等の動物除け対策として、警報装置にサイレンとは別にBGM放送用のスピーカーを取付けた。音楽再生アンプを音源として警報サイレンを邪魔せず、作業員が不快にならないように軽音楽を作業中に放送し、和やかな雰囲気作りをした。



株式会社 文明屋

1. 会社としての安全管理重点事項

- ① 労働安全衛生MSの積極的推進により労働災害撲滅、快適な職場環境を形成。
平成27年度 安全衛生目標
「死亡・重篤災害、墜落災害、重機災害、交通災害・違反」を”ゼロ”とする。
- ② ストレスチェック体制の構築
ストレスチェック実施体制を確立するため外部機関より講師を招き、安全衛生委員会で調査審議し、体制、規定を確立。(H28年度より運用開始)
- ③ 社内安全パトロールの実施
社内安全パトロールを毎月2回実施し、チェックリストにより指摘事項、是正内容を月毎に社内全員に周知した。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 土樽流路工改築その2工事における安全管理上の課題

豪雪地帯での冬期工事であり、現場周辺では雪崩の危険に加え、凍結による交通災害が懸念された。また、施工箇所は川幅 20m の狭小河川であることから、降雨・融雪期には急激な増水による出水も予測された。
よって、雪崩・交通事故・出水災害が課題となった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

雪崩監視員による点検及び雪崩対策のみに係わらず、人型ダミー人形を作成し実際に起こりえる状況を再現して実践訓練を行った。

交通管理では、運搬経路の危険マップ等車載用資料を作成配布し、新規入場時や安全訓練において工事従事者全員に教育を行った。

また、出水災害については、下げ振り型の水位計を設置した他、12月に発生した降雨による出水被害写真をもとに、安全教育資料を作成し教育を行い、緊急連絡体制・対応手順の確認を、現場従事者全員に周知した。

上流工区の全景



ダミー人形による実践訓練



注意・危険箇所マップ



3. その他工夫している点

豪雪・寒冷地であり、事務所・休憩所の仮囲い及び使い捨てカイロ、防水防寒着の支給や乾燥室の設置を行った。また、女性従事者専用のトイレ・更衣室を設置した。

株式会社 北 條 組

1. 会社としての安全管理重点事項

安全衛生重点目標として、挟まれ・接触事故防止、墜落転落事故防止、作業中の交通事故防止を掲げ、具体的な実施事項を定め、達成するための施策を実施している。店社の安全衛生管理計画及び活動は OHSAS 18001:2007 で規定し、定期的に安全衛生委員会、安全大会等の活動を行っている。店社から作業所への支援として着手前には社内及び施工業者とともに工事毎の施工検討会を行い現場特性、施工手順を踏まえた安全管理の指示を徹底し、また店社パトロール、協力業者パトロールを行い工程毎の特徴を把握し改善点を指摘している。尚、不備の指摘は即座に是正・報告し、再度点検する体制を敷いている。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 工事における安全管理上の課題

本工事は長野市松代地先で、千曲川本流護岸の保護を目的に、根固ブロックの製作・運搬・投入を行う工事であった。製作時はコンクリート打設重機との接触、また炎天下での作業のため熱中症が心配された。運搬時は狭隘な市街地道路を通過するため、第三者との交通事故、投入先ではクレーン災害も懸念された。



安全大会

② 課題に対して現場で行った安全対策

製作時のコンクリートは、従来はクレーンで吊下げたホッパーで打設したが、そのブレによる危険性があるため、バックハウに取付けた専用のバケットで行い安全性を確保した。また熱中症対策として環境表示器を設置し、気温、WBGT値等の見える化を図った。運搬作業は協力業者と経路上の危険箇所を照査し、情報共有として経路マップを作製し活用した。クレーンによる投入作業はクレーン足場確保のため敷鉄板を行い河岸地山とともに点検を行った。またワイヤー、フックも入念な点検を行い無事完成することができた。



コンクリート打設状況

3. その他工夫している点

熱中症対策に関連し、根固ブロック製作時は直射を受けるため作業員休憩所とは別に簡易テントで日陰をつくり「休息できる場所」を確保し熱中症対策グッズ（冷水、塩アメ、冷却タオル等）を常備した。また、打設足場として可搬式作業台を使用し、脱型時は速やかに移動させ作業スペースが確保でき安全に作業が行えた。

北陸パブリックメンテナンス 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 労働災害防止

- ・ リスクアセスメントを取入れた安全衛生管理計画・作業計画書・作業手順書・危険予知活動の確実な実施と効果の確認、PDCAサイクル実施状況の確認。
- ・ ヒューマンエラーによる災害防止の為に安全衛生教育の積極的な実施。

② 交通公衆災害防止

- ・ 運転者管理・車両管理・運行管理の徹底。
- ・ 道路上作業時、もらい事故防止の徹底。
- ・ 架空線・埋設物損傷事故防止対策の徹底。

③ 健康障害防止対策・科学的熱中症対策の実施

- ・ 休憩設備等の職場環境の整備及び健康づくりと健康に関する教育の実施。
- ・ WBGT値実測による管理の徹底（黒球付WBGT測定器を使用し基準値に基づく評価）。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 交通規制時における安全管理上の課題

当作業は交通規制を伴う現道上の作業が多く、交通量の多いパノパスでは交通規制時における一般車の追突等による事故が懸念され、安全を確保する為に事故防止対策を検討しました。

② 課題に対する安全対策

規制帯の先端部に回転灯(赤色)を設置。黄色に比べ、視認性が良く、一般車への注意喚起に効果がありました。

一般車が規制帯の手前で早めに車線変更を行なってもらう為に規制帯の手前2kmから設置する予告看板の全箇所にて電光式矢印板と小型の警告灯を取付け、一般車へ注意を促した結果、効果がありました。

【回転灯(赤色)設置】



【警告灯(赤色)設置】



3. その他工夫している点

現道上において一般車ドライバーが当現場の作業員を確認し易くする為に黄色い安全靴を支給、着用させ、存在感をアピールしました。

安全チョッキと同様の反射材が取付けてあり、夜間作業に効果がありました。

【安全靴(黄色)着用状況】



【作業状況(夜間)】



株式会社本間組

1. 会社としての安全管理重点事項

① 当社安全衛生目標

『死亡・重篤災害ゼロ、度数率 1.0 以下、職業性疾病ゼロ』

② 安全衛生重点実施事項

1. 墜落・転落災害の防止 2. 重機災害の防止 3. 健康障害の防止

③ 重点実施事項の取組み

当該工事の特性から、重機災害の防止については、特に下記を重点実施し取り組みを行った。

1. 作業範囲や地盤を考慮し、重機の転倒を防止する作業計画の作成または改訂の指導
2. 協力業者へ自己安全義務の浸透と定着の教育（ヒヤリハット事例等による安全考動の徹底）
3. 安全品質環境部と土木部の 2 部門で、安全パトロールを実施し不安全状態等の是正・指導を図り、全社への水平展開を行う。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 当現場における安全管理上の課題

当現場は、河道を掘削し土砂を場外へ搬出する工事であった。土砂運搬は、場内では農耕車と共有した工事用道路を通り、一般道では搬出先が 1 2 か所に分散したため、運搬経路が複数に渡り、土砂運搬における第三者に対する安全対策が重要な課題であった。



添付図-1

② 課題に対して現場で行った安全対策

(1) 第三者への周知

工事車両出入口に安全掲示板を設置し、当日の運搬台数を表示し第三者に対して注意喚起を行った。

(2) 安全運転パトロールの実施

現場内の安全パトロールの他、運搬経路上でのパトロールを実施し、交通マナーの遵守に努めた。（添付図-1）

(3) 安全運行マップの作成

安全運行マップを作成し、作業開始前にダンプトラック運転手に説明し、運搬経路上の危険箇所を周知させた。ダンプトラック全車にドライブレコーダーを設置し、万が一の事故対応、リスクの低減、運転手の安全意識の向上を図り、交通事故防止に努めた。（添付図-2）



3. その他工夫している点

土砂運搬車両が多いため、昼休みの休憩場所に県港湾用地を借地し、一般車両と共用する場所に駐車しないよう配慮した。これにより、一般車両に迷惑をかけず、駐車による事故誘発を防止した。

また、運転手は苦情を受けることなく十分な時間を休息に充てることができた。（添付図-3）



添付図-3

株式会社丸西組

1. 会社としての安全管理重点事項

①丸西組安全方針の遵守

基本理念である「人命の尊重」を安全行動の基本原則とし全ての作業に安全を優先させる為、安全衛生基本方針「リスクの特定 改善する努力 そこから始まる 安心・安全」スローガンの基、丸西組独自の安全十ヶ条を制定し全作業所が一丸となり、年度安全目標を達成する。

②社内危機管理体制の構築

安全衛生管理組織図、丸西組組織図の組織体制により、緊急事態発生時は緊急事態発生連絡系統図に基づきトップまで早急に報告できる体制を整えており、全社員による全体会議、土木部会議、建築部会議、安全衛生委員会を毎月開催し、問題点を報告し解決していく体制としている。また各会議では各部署の情報共有を行い、常に危機管理体制を強化している。

③ヒヤリハット収集、検証の実施

各作業所のヒヤリハット事例を収集し、安全衛生委員会で検証しデータを蓄積することにより類似工事の災害防止に寄与する。

2. 現場等における具体的な取組事例

①重要文化財に隣接した工事における安全管理上の課題

本工事施工箇所は、重要文化財（小松天満宮）を中心とした分水路及び輪中堤工事であり、分水路施工に伴い仮参拝路から本設参拝路への切り回し及び参拝者の安全対策が課題であった。

【凡例】

仮参拝路  本設参拝路 



状況写真

②課題に対して現場で行った安全対策

本設参拝路に切り回し後、参拝路に完成予想図、毎月の進捗状況写真を掲示し、参拝者が訪れるごとに職員による工事説明、参拝路の注意事項を説明して、安全対策を講じた。また、参拝路を定期的にメンテナンスし、参拝者へ配慮した安全管理を実施した。重要文化財への配慮として、建設機械の走行時振動は特に注意し低速走行を実施、神事の時間帯では建設機械を停止させる等の配慮を実施した。



状況写真

3. その他工夫している点

施工箇所が限られたヤード内で制限された仮設道路を設置するため、道路勾配及び線形は大型車両が最小限に通過できる構造であったため、急勾配箇所及び急カーブ箇所には必要な安全対策を講じ、安全管理を実施した。又、会社として衛生面のメンタルヘルス講習等を実施し安全管理活動に寄与する。

和仁建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全管理体制の構築

安全衛生管理計画に基づき、年2回の安全衛生委員会及び月1回の活発な分科会活動を組織的に取り組んでいる。また、月1回の店社安全パトロール後は、指摘事項を速やかに作業員に周知・改善を図り、関係者への是正報告を確実に実施している他、新規入場者教育では、作業内容に応じた教育資料や分かり易い作業手順書を作成するよう工夫する等、災害ゼロから危険ゼロを目指した行動目標を徹底している。

②危険ゼロを目指した現場安全管理活動の徹底

安全施設設置計画に基づき、労働災害、公衆災害、交通事故、環境対策等に関するきめ細かな安全施設等を適切に配置している。また、作業手順及び作業前にリスクアセスメントを用いて、分かり易く、かつ、きめ細かく全作業員に周知する等、安全ミーティングの内容を工夫しながら安全管理活動を実施している。

③緊急時に備えた救急救命講習の積極的実施

本社及び全ての作業所にAEDを配備し万一の緊急時に備えている。また、地元消防署職員を講師に招いた、全社員参加による救急救命講習を定期的実施している。



2. 現場等における具体的な取組事例

①本工事における安全管理上の課題

当該工事箇所は標高1,700mの急峻山岳地帯であり、工事用道路は幅約3mで狭く蛇行し、かつ急勾配・長距離であり、また、施工基面まで深く狭隘で常に転落の恐れがある箇所であったことから、万一の緊急時に備えた安全管理体制及び転落防止に対する安全対策が課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

1. 救急車到着までの救急救命に関する実践的な教育訓練を実施した。また、熱中症対策や有害動物対策を実施し安全管理体制の強化を図った。
2. 高低差のある基面を安全に掘削するためスライドアーム型掘削機を採用し、また、EPSを安全に運搬するため鉄筋を加工したカゴ枠を作製して下まで降ろした。
3. 車輻転落防止用の駒止ブロック基礎部を加工することにより、単管パイプを使用した手摺り兼用の転落防止柵を設置し、転落防止対策を図った。



3. その他工夫している点

吉城建設業協会等が主催する安全に関する講習会や岐阜県公安委員会の安全運転管理者講習等に社員を積極的に参加させながら、全社員の安全意識向上を図っている。

工事現場における安全訓練は、労働災害事例の映像等によるビジュアルで効果的な資料を用いて解りやすい内容で実施することを心がけている。

北陸地方整備局 企画部 技術管理課

TEL 025-280-8880 FAX 025-280-8861

HP <http://www.hrr.mlit.go.jp>